

2002年度 採集観察会

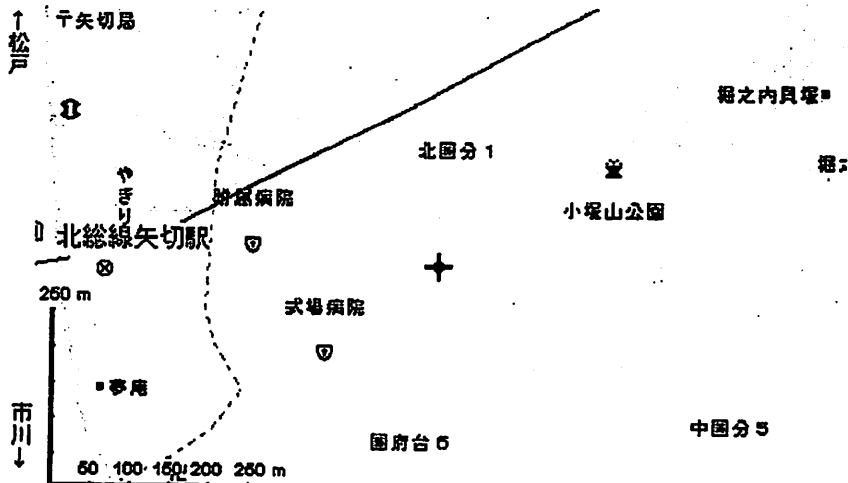
1. 場所 千葉県市川市 小塚山公園・堀之内貝塚公園周辺

2. 日時 第3回 10月13日(日) 雨天決行
(第4回 2003年2月16日)

3. 集合 北総公団線 矢切駅 10:30

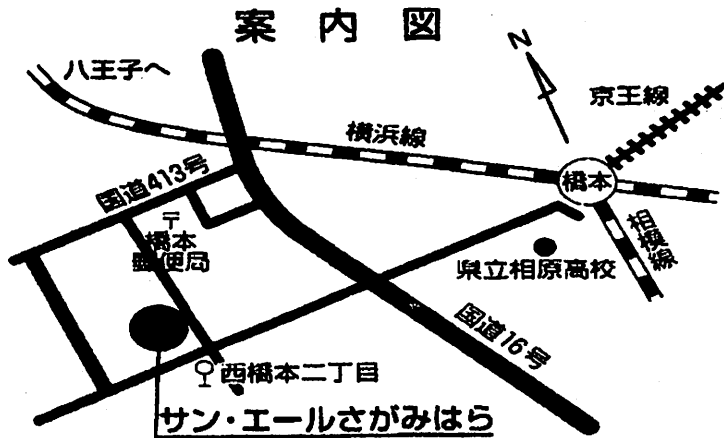
4. 交通 ①都営浅草線・京成線方面からは高砂駅経由にて北総公団線
(印旛日本医大または印西牧の原行き) 矢切駅下車。
②総武線市川駅下車京成バス利用「松戸車庫・松戸駅(矢切
駅経由)」矢切駅下車。
③常磐線松戸駅下車京成バス利用「市川駅(矢切駅経由)」矢
切駅下車
④武蔵野線東松戸乗り換え北総公団線矢切駅下車
※北総公団線は上下線とも約20分に1本の運行なので注意。

5. 世話人 加藤 輝代子 (Tel.047-373-3344 または 090-7012-6458)



2002年度 東京蜘蛛談話会12月例会

1. 日時 2002年12月1日(日) 10時より
(9時30分開場)
2. 場所 サン・エールさがみはら 第1研修室(2F)
相模原市西橋本5-4-20 Tel. 042-755-5665
※ 場所が変わっています。注意してください。



●●● 交通案内 ●●●

JR横浜線・JR相模線・京王線橋本駅南口から徒歩10分
バス停 西橋本二丁目
駐車場 130台(無料)

3. その他

(1) プロジェクター等ありますので、従来通りの発表が可能です。

談話会合宿の報告

萩本房枝

参加者（敬称略）：浅間茂、新井浩司、新津紅、池田博明、井手和美、笠原喜久夫、加藤倫之、貞元己良

佐藤幸子、新海明、新海栄一、谷川明男、土屋昌利、永井亜紀、萩本房枝、萩本明洋、萩本果南、

初芝伸吾、初芝涼、初芝琢磨、初芝秋沙、羽深勲、安田明雄、八幡明彦、吉井光、和仁道和 以上26名

日程：2002年7月20～22日

東京都内の最高気温が32℃を越える中、少しでも涼しい所を求めて栃木県那須岳の麓で合宿することにしました。談話会では色々なところで合宿していますが、関東でありながら栃木県は合宿を行ったことがなく、実は今回初めて合宿を行うことにしました。

栃木県でも、気温は東京とあまり変わりがないのですが、時折吹く風がさわやかで東京とは違い空気もおいしく本当にいいところに来たなーと言う気がしました。

今回、泊まる所は別荘地の中のペンションで交通の手段がないので、車できた方に協力して頂きながら参加者のみなさんがペンションに集合しました。集合したとたんに雷がなり、都内とは全く違いバケツをひっくり返したような雷に驚きました。観察しているときにこんな雷が来ないことを祈るばかりでした。

夕食後、田圃のある小深堀で観察をしました。時折、田圃の中を飛び交う蛍を見ながら観察したところ、トリノフンダマシを観察することができました。目的の蜘蛛を見ることが出来てみんな満足・・・でした。2日目は、夜間観察したところで観察、夜間は14種でしたが、2倍ぐらいの蜘蛛を観察することが出来ました。電話ボックスの中を見るとオニグモの仲間の網にアオガエルが掛かっていました。どうして掛かってしまったのか謎ですが、問題として残して次に移動しました。小深堀がとても暑かったので、予定を変更して標高1200mの沼原湿原で観察することにしました。アカオニグモがいるかもしれないという期待もあって沼原湿原にしました。沼原湿原でお弁当を食べ終わったころ、近くいた幼稚園のことも違がいなくなり嫌な予感がしましたが、とりあえず沼原湿原に向かいました。しばらくたった頃、あのすごい雷に遭いました。傘も役に立たず、ずぶぬれでの状態になりました。こんな状態でしたので、残念ながらアカオニグモに会うことは出来ませんでした。ミドリアシナガなど高山性の蜘蛛を観察することが出来ました。沼原湿原から三戸小屋温泉に向かう登山道に“熊出没注意”の看板が何枚もありました。熊に会わなくて良かった。このあと何人かは、貞元さんがコケオニグモを見つけた近くの木の俣地蔵にいきました。とても、静寂なところでいかにもコケオニグモがいそうな雰囲気

と思いながら観察したところ、いました！コケオニグモ！みんなで喜びました。夕食後、夜間観察は宿の近くの遊歩道でゴロゴロ鳴る雷を気にしながら行いました。オニグモの仲間がたくさん観察できました。なによりも、ヤマシロオニグモの交接の瞬間を見ることが出来ました。みんなで懐中電灯を照らしながら長く見ていたので、ヤマシロオニグモは迷惑だったかもしれませんが、なかなか夜出て見られない私は感動してしまいました。3日目は、那須岳ロープウェイの付近での観察。キタエビグモなど、ここでも高山性の蜘蛛を観察することが出来ました。お弁当を登山道の近くで食べたあと解散しました。その後、萩本と新津さんは温泉に他の方は自宅に向かいました。

今回の合宿を企画するにあたり、現地担当者がいなかったため、下見に協力して下さった、谷川明男さん、新海明さんにお礼を申し上げます。また、交通が不便なため車を出して下さった方々にもお礼を申し上げます。今回、皆さんの協力があって無事に合宿を終えることが出来ました。色々な発見があった合宿でした。来年も合宿をしますので、新しい発見をする為に是非、参加してください。来年も多数の参加お待ちしております。

高橋登氏、追悼文をお寄せ下さい

KISHIDAIA 編集（池田博明・谷川明男・木村知之）より
運営委員で発足直後から会員として活躍されていた
高橋登さんが去る7月15日に脳出血で急逝されました。
KISHIDAIA の次々号（2003年2月締切）で
追悼特集を組みたいと思います。
追悼文や資料を池田までお送り下さい（2003年1月31日締切）。

高橋 登さんを悼む

新海 明

去る7月15日、高橋 登さんが脳内出血で他界された。登さんと私は同期の桜であった。東京クモ談話会の第1回の例会が行なわれた1970年11月29日に参加されていたという記録があるから(K22)、談話会へは高校3年生から出席していたことになる。残念ながらこの例会には私は参加していなかった。それ以降、1971年の第1回の滝山城址採集会にも、第1回の清澄山合宿にも参加しておられるので、まさに談話会とともにその人生を歩んでこられてきたことがわかる。談話会の役員も1975年から現在まで、なんと27年間も務められていた。

物静かな方であった。例会や採集会の打ち上げに参加されたときにも、いつも穏やかに談笑されていた。おそらく、談話会についての幾多の悲喜こもごもの思い出を経験されてきたのであろうが、その多くを語られることはなかったように思う。私は、談話会のメンバーとして当初から積極的に参加していたわけではない。せいぜい、ここ15年ほど前からの常連であるから(といってもすでに談話会の歴史の半分くらいは付き合いってしまったことになる)、高橋さんとお付き合いも互いに歳をとってからのものであった。とくに、クモタケの調査では色々な情報をいただいた。クモタケに関する情報をキシダイアに投稿してクモの研究者の注意を最初に喚起したのは高橋さんであった(K39)。また、日本のクモ学と御雇い外国人に関する論文(K79)は秀逸であった。御雇い外国人が残した足跡をたどり日本各地への研究旅行にもたびたび行かれていた。それらの報告は談話会の例会などでたびたび伺うことがあった。また、彼のクモに関する蔵書も知る人ぞ知るものであった。本草書などの江戸時代のものから最近のものまで硬軟織り交ぜ多岐に渡り膨大な資料を集められていた(K81)。私も最近になり江戸時代に書かれた本草書のクモを同定する機会があり、あれこれといろいろな文献を探るときに高橋さんの情報は貴重なものであった。ごく最近書き上げた「栗本瑞見による千蟲譜のクモ」についても校閲をお願いしようとしていたところであった。これは是非とも読んでいただきたかった。そして、またあれこれと楽しいクモに関する話をしてみたかった。2001年2月に名古屋で開かれた中部クモ懇談会に出席したおりに、高橋さんと偶然お会いした。「アルプレヒト・フォン・ローレッツと日本のクモ」という題で講演されていた。日本のクモ学の黎明期の研究は古くからあるが、その後の資料に基づく分析は十分とは言えないように思う。この分野での高橋さんのこれからの研究成果に期待していただけに、あまりに早すぎるご逝去が悔やまれてならない。

同期の桜として、同じ歳月をクモの調査に費やしてきた互いの人生を重ね合わせて、ただただご冥福を祈るのみである。

加治木町で日本蜘蛛学会開催！

笹岡 文雄

8月23日（金）～25日（日）、鹿児島県・加治木町にて日本蜘蛛学会第34回大会が開催されました。加治木町はコガネグモを使ったクモ合戦の町として知られ、町挙げてその保存と新興に取り組んでいる町です。

北海道から沖縄までの会員約60名が集まり、講演19、ポスター発表3が2日に渡って披露されました。

主な講演は

「ゴケグモ類のオスはなぜ食べられるか」新海栄一

「イソウロウグモ類のホスト選好性」新海明

「クモで学習実験は可能か」渡部健

「キムラグモ亜科（ハラフシグモ科）のクモ類の分布に関する新知見」小野展嗣

「ヤマキレアミグモについて」谷川明男

「シロカネイソウロウグモの生活史」安田明雄

などです。

今回学会大会と平行して、町制施行90周年行事「加治木くもフェスタ2002」も23日（金）より開催されました。そのフェスタ蜘蛛学会会員兼談話会会員が大挙して協力しました。

その中の目玉の一つ、「くものアート」の展示会は生態写真、電子顕微鏡による拡大写真、網のアート、クモグッズ、生きたタランチュラ！など談話会会員のみなさんにはお馴染みのものが所狭しと展示されました。

また国文学者・横尾文子さんの基調講演「古代土蜘蛛の正体」からスタートしたシンポジウム「くも好きの文化とくも嫌いの文化」も開催され、侃々諤々、議論百出の活発な討論がおこなわれました。

親子クモ観察会やクモ造形工作のコラボレーションもおこなわれ、大人から子どもまで幅広く楽しめる催しになりました。

南九州一の設備を誇る加治木町の「加音ホール」は、期間中ほぼ貸切でクモ一色。町挙げてのバックアップは大変なもので、役場から直接の張り付き職員が派遣されるほどでした。

2002年度採集観察会・千葉県市川市小塚山公園、堀之内貝塚公園周辺（中間報告）

第1回（5月12日）、天候：晴れ、

参加者：

新井 浩司、池田 博明、泉 宏子、笠原 喜久雄、加藤 輝代子、加藤 倫之、木村 知之、工藤 泰恵、久保田 三栄子、小峰 光弘、貞元 己良、佐藤 幸子、澤田 和久、澤田 弘子、新海 明、高橋 登（故人）、高橋 拡奈、高橋 若菜、谷川 明男、土屋 昌利、羽深 勲、伴 満、本間 征、水野 早苗、水野 麻美、八幡 明彦、吉井 光、和仁 道大。以上28名。

確認種一覧：

ジグモ y, キシノウエトタテグモ y, 住居, ヌウレイグモ F, ミヤグモ y, 住居, センショウグモ M, ヒラタグモ F, マネキグモ F,y, カタハリウズグモ F, カグヤヒメグモ F,M, ヒメグモ y, オオヒメグモ y, アシプトヒメグモ F, オオツリガネヒメグモ y, シロカネイソウロウグモ y, オナガグモ F,M, チリイソウロウグモ y, フタオイソウロウグモ sub M,y, ヤリグモ M, コアカミジグモ M, シモフリミジグモ F, カレハヒメグモ F,egg, ムラクモヒシガタグモ y, スネグロオチバヒメグモ F, バラギヒメグモ F, ムナボシヒメグモ F,M,y,egg, コケヒメグモ F,M, オオシロカネグモ M,y, コシロカネグモ F,M, ジョロウグモ y, アシナガグモ F,y, キララシロカネグモ F, ウロコアシナガグモ y, ハツリグモ F, ヤエンオニグモ F, アオオニグモ F, マルズメオニグモ y, オニグモ F, ビジョオニグモ y, コガネグモ y, コガタコガネグモ y, コガネグモダマシ F, ヤマトカナエグモ F,egg, ギンメッキゴミグモ F,M,y, ゴミグモ F,M, ヨツデゴミグモ F,M, シロスジショウジョウグモ M,sub F, コゲチャオニグモ y, ヤマシロオニグモ y, サツマノミダマシ y, マメイタイセキグモ y, カラフトオニグモ F, ウズキコモリグモ M, ハリゲコモリグモ M, イオウイロハシリグモ F, ササグモ sub M,y, シボグモ F,M, クサグモ y, コクサグモ y, ネコハグモ M, ハグモ sp., ヤチグモ F, イタチグモ sub F,y, ウラシマグモ F,M, アシナガコマチグモ M, カバキコマチグモ F, フクログモ sp., ネコグモ y, エビチャヨリメケムリグモ F, キンイロエビグモ M, キハダエビグモ F,M, アサヒエビグモ F, シヤコグモ F,sub M,y, キハダカニグモ F, コカニグモ M, コハナグモ M, ワカバグモ F, アズチグモ y, セマルトラフカニグモ sub M,y, ヤミイロカニグモ F, シナカニグモ（カラカニグモ） F, マミジロハエトリグモ F,M,y, コジャバラハエトリグモ M, エキスハエトリグモ F, ヨダンハエトリグモ M,sub F, ヤサアリグモ F,y, アリグモ F,M, チャイロアサヒハエトリグモ y, デーニッツハエトリグモ F,M, カラスハエトリグモ F,y, 合計 87種。

第2回（7月7日）、天候：曇り一時小雨のち晴れ

参加者：

新井 浩司、安藤 昭久、井出 和美、今井 正巳、小川 智行、笠原 喜久雄、加藤 輝代子、斎藤 洋一、貞元 己良、澤田 和久、澤田 弘子、新海 明、高橋 登(故人)、谷川 明男、野島 正幸、羽深 勲、安田 明雄、八幡 明彦。以上 18 名。

確認種一覧：

ジグモ 住居, キシノウエトタテグモ 住居,y,クモタケ, センショウグモ F,M, ヒラ
タグモ y, マネキグモ F,y, カタハリウズグモ F,M, カグヤヒメグモ F,M, ヒメグ
モ M,f, オオヒメグモ F,egg, オナガグモ F,egg, チリイソウロウグモ F,M,sub
M,y, フタオイソウロウグモ F,M, カレハヒメグモ F,egg, ムナボシヒメグモ M,y
シモフリミジングモ F, ハイイロヒメグモ F, ナニワナンキングモ F, ヘリジロサ
ラグモ F,M, オオシロカネグモ F,M, コシロカネグモ F, ジョロウグモ y, キラ
ラシロカネグモ F, ヤサガタアシナガグモ y, ハツリグモ F, オニグモ F,y, コ
ゲチャオニグモ y, カラオニグモ y, ビジョオニグモ y, コガネグモ F, ナガコガ
ネグモ y, コガタコガネグモ y, ギンメッキゴミグモ F,y, ゴミグモ F, ヨツデゴ
ミグモ F,y,egg, ヤマトゴミグモ M, ヤマシロオニグモ F,M, サツマノミダマシ m
ワキグロサツマノミダマシ y, ハリゲコモリグモ F,egg, イオウイロハシリグモ y
ササグモ F,M, シボグモ F,egg, クサグモ F,M,sub F,sub M,y, コクサグモ y,
シモフリヤチグモ F, イタチグモ F,M, ウラシマグモ F,M, ヤバネウラシマグモ
F,M, アシナガコマチグモ F, カバキコマチグモ F,egg, ヤマトコマチグモ F
ワシグモ sp. F, メキリグモ F, キンイロエビグモ F, キハダエビグモ F,
アサヒエビグモ F,M, シャコグモ y, キハダカニグモ F, アズチグモ M,y, セマ
ルトラフカニグモ F, ヤミイロカニグモ F, ウデプトハエトリ F, ミスジハエトリ
F, シラヒゲハエトリ F,y, ヨダンハエトリ M, チャイロアサヒハエトリ F,M,
モンシロコゲチャハエトリ M, カラスハエトリ F, アリグモ F, 合計 69 種

風のように

渡辺淳一



[絵] 三嶋典東

蜘蛛のいる窓

いま、札幌郊外の別荘にきている。八月の初めにきて、今回、二度目の別荘住まいだが、その間に、小さな変化があった。と、いつても、書斎の窓の外側のことだけだ。

ふと見ると、そこに蜘蛛が巣を張っていて、その右上の位置に、大きな蜘蛛が一匹とまっている。だから、どうした、といわれたらそれだけのことだけど、とにかく変化は変化である。

張られた蜘蛛の巣

蜘蛛について、わたしはまったく知識がなく、むしろ、目の前の蜘蛛が何という種類の蜘蛛であるかわからない。

それはともかく、この蜘蛛がわたしがいなくなったあいだに、巣をつくったようである。

それにしても、書斎の窓の目の前に、蜘蛛の巣が張られていては鬱陶しい。しかもその上方に、大きな黒い蜘蛛が、机に向かって私を覗き込むような形で、ぶら下がっている。

るのだから。

「やい、この野郎、俺がいらないあいだに、よくもこんなところに、巣を張ったな」

いままでのわたしなら、そんなことをつぶやきながら、棒など持ち出して蜘蛛の巣を断ち切り、蜘蛛を叩き落したに違いない。

いや、そこまでしなくても、窓は前方に開く形になっているので、開けて押し出せば、窓の端が巣に当たって、たちまち崩壊するはずである。だが開けて、わたしは思わず、手を止めてしまった。

なぜ、といわれても、とくに理由があるわけではない。

ただ一瞬、蜘蛛の立場を考えたからである。

わたしが留守にしたあいだに、この蜘蛛は皆々と努力して、これだけの巣を張り巡らしたに違いない。

書斎の窓の前といっても、この蜘蛛はそんなことは知らず、此処が最適と思っただけだったのであろう。それを、目障りだからといって、追い払うのは、少し酷ではないか。

親友の死

それにしても、蜘蛛ごときに何故、そんな同情心がわいたのか。

考えてみると、それには一つの伏線があったような気が、しないでもない。

というのは、こちらへ来る前、東京でKという友人が、突然、亡くなった。

もっとも、わたしには突然に思えたが、Kはその数年前から大腸癌を患い、手術をしたとも聞いていた。

Kと最後に会ったのは、いまから半年前で、見たところ元気そうだったので、「癌というのは、身体の上にあるものより、下のほうが性質が悪いから、大丈夫だよ」と励ました覚えがある。

そのKが、それからわずか半年後に死んでしまった。

わたしがいったことは、間違いないのだが、もしかすると、他にでも転移していたのかもしれない。

とにかく、Kの死は、わたしには裏耳に水だった。

こんなことになるなら、亡くなる前に会っておくべきだったと悔やまれたが、彼の方からはなんの連絡もなかった。

高校時代の親友だが、わたしとは

新刊紹介

大阪国際児童文学館専門員

- ★『クモにほひみつ』ユミ・ハオ絵 トーン・ベントリー文 朝武佳英訳 大日本絵画 1700円
- ★『星と天のてのひら』U・G・サト一文の絵 後藤九・油井道一写真 『月刊たけくらべ』のふし 1800円 福音館書店 7000円
- ★『カッパのめづなり』中山千鶴子著 講談社 16000円
- ★『ベルト』ガリラ・ロンフェテル・アミット作 母慈愛生訳 さ・え・ら書房 14000円
- ★『フクは海に住む』ポーラ・フォックス作 藤原孝訳 さ・え・ら書房 12000円
- ★『Jの地球防衛隊』さとうまき子著 講談社 16000円

毎日新聞 2000.5.24.

梅林力さん提供

たけくらべのクモをクモが被るすの顔。しかげのおもしろさが喜び勇んでパーティーに参加する虫たちの興奮、迫力あるクモの出現を盛り上げています。



日本人2部門で1位 火星の絵コンテスト

惑星協会（本部・米カリフォルニア州）が募集した火星の絵の国際コンテストで、京都府城陽市の府立西城陽高3年五十嵐英彦さんが青年の部（11～18歳）で、埼玉県川口市の大久保和美さんが成人（19歳以上）の部でそれぞれ1位になった。子どもの部（10歳以下）では奈良県御所市の市立大正小2年栗真佑也君が2位に入賞した。絵は火星の現在と100年後の想像図の2枚組み。12カ国から150点が集まった。

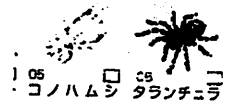
日本からは国内審査で選ばれた15点が参加した。惑星協会は故カール・セーガン博士が設立した民間団体。地球外知的生命の探査などを目的にしている。各部門の1位の3作品からグランプリを選ぶインターネット投票を30日まで協会のホームページで受け付けている。作品や投票方法は、日本惑星協会のホームページ（http://www.planetary.or.jp/）で紹介されている。



大久保さんの作品。火星の渓谷をクモ型のロボットが探査している＝いずれも日本惑星協会提供

朝日新聞 2001.9.26.

Furuta 子ヨコエツク 動物 第6巻 おもしろ動物編



渡辺博明さん提供

